

◆「パートナーシップ」型は群馬県内企業と県300万円補助率3分の2の第1種A。具体的な成果が見込める研究を助成。対象は県内外を問わず研究の成果が期待できる企業(国300万円まで全額補助)◆第1種Bの内容はAと同じだが対象は群馬市と桐生市に限定(県300万円まで全額補助)◆第2種の内容は研究が企業と県企業と県300万円まで全額補助)を助成。対象は研究が企業と県企業と県300万円まで全額補助)

平成29年度共同研究 採択一覧				
区分	申請者名	所在地	開発テーマ	共同研究先
第1種	株式会社 フューチャーアンドスペース	みどり市大間町	高齢者介護施設等における見守りロボットの開発	群馬大学
	株式会社 サンデンオートモティブフューチャーシステム株式会社	伊勢崎市八斗町	車載エアコンのHAVC用送風機の騒音低減に関する研究	埼玉大学
	株式会社 梁瀬産業社	桐生市東	山菜中のがん細胞を攻撃するファイバー表面加工および吸着用過剰装置の開発	繊維工業試験場
	フジレス株式会社	桐生市相生町	ヤマビル忌避性能を有する繊維製品の開発	繊維工業試験場
	泉織物株式会社	桐生市東	シルクと機能性素材の複合化による涼しい夏用着物の開発	繊維工業試験場
	川村 株式会社	桐生市仲町	インナー製品に対応した遠赤外線放射繊維/綿混紡素材の吸湿性コーティング	繊維工業試験場
	合資会社 オリエンタル	桐生市相生町	古紙再生繊維の市場性を確立するため、群馬大学、繊維試験場と連携して要素技術を開発する	群馬大学 繊維工業試験場
	株式会社 鈴木機械	桐生市広沢町	振動耐久試験用組立型治具の適正素材と接合技術の開発	群馬大学 産業技術センター
	昭和理化学工業株式会社	桐生市広沢町/鳥島	夏夏季熱の熱中症対策のためのエネルギー自立型緑化ミストベンチの開発	群馬大学 東京農工大学総合研究センター
	産業技術センター	前橋市亀里町	カルシウム系材料による涵管管有排水中の油分除去技術の開発	東京カレント株式会社

目指せ新製品・新技術

共同研究 10件の採択決まる

本研究会(根津久雄会長)は6月13日、2017年度産官学共同研究助成事業の採択結果を発表した。助成タイプは前年度と同じ4種で、申請件数は13件、このうち10件を採択した。共同研究の助成は本研究会の主要事業の一つ。企業と大学・公設研究機関などが協力して取り組む共同研究は、地域産業の高度化や新製品・新技術の開発、新規産業の創出などを旨とする。今回申請のあった13件については、一般企業や公的研究機関、大学教授、県・市の関係者7人が審査し、10件を選出した。助成予算は約1500万円。6月13日の本研究会総会、そして太田キャンパスで、採択した研究の発表責任者に交付状を手渡した。

採択事業の申請者と共同研究先は表のとおり。

ひとつくり巡り 久米原氏が講演

技交研総会

群馬大学技術交流研究会の第31回理事会・総会、および講演会が5月31日、桐生市の桐生地域城地場産業振興センターで開かれた。理事會には19人、総会には26人が出席した。

総会、講演会、短期留学支援事業、産・官・学交流フォーラム、工場見学会並びに技術討論会、分科会活動、協賛事業に関する事業報告と決算報告、そして太田キャンパスで、講演する久米原宏之氏。

講演会では、一般財団法人地域産業連携のつくりの研究機構(MRO)リサーチ・エコの久米原宏之氏が、地域におけるMROの役割と題して講演した。

MROは2009年に太田市並びに太田商工会議所の全面的な支援により、テクノプラザおた(群馬大学太田キャンパス所在地)に設置された。総会には26人が出席した。

企業支援事業、地域の人材育成事業など、ものづくり(ひとづくり)の活動としてのサイエンスアカデミーの開催、一社一博士の創出、スキルアップ研修など多岐にわたる活動を説明。群馬県委託事業として医療機器開発事業化実践塾を開き、最終的には地域の中

— 8月以降の演題と講師 —

- ◇ 8月25日 = 「微小気泡を用いた超音波治療」(江田康助教授) / 「金ナノ粒子の調製と応用」(畠山義清助教授)
- ◇ 9月15日 = 「加速度センサのしくみと応用」(中沢信明准教授) / 「測定実習と結果の解析」(同)
- ◇ 10月20日 = 「材料の破壊及び材料試験」(松原雅昭教授) / 「材料の破壊及び材料試験」(同)※講義後に研究室見学
- ◇ 11月17日 = 「振動と音の基礎と対策法」(山口晋夫教授) / 「測定実習と結果の解析」(同)
- ◇ 12月15日 = 「分析基礎講座・物質の特徴と分析方法など」(会場は機器分析センター、林史夫准教授)
- ◇ 1月26日 = 「機器分析センター分析実習」(会場は機器分析センター、林史夫准教授)

アップ研修など多岐にわたる活動を説明。群馬県委託事業として医療機器開発事業化実践塾を開き、最終的には地域の中

2017年度の技交研セミナーのスケジュールは次のとおり。北関東産官学研究会の会員は、自由に聴講できる。会場は理工学部(1号館4階第1会議室)。聴講希望者は群馬大学科学技術振興会理事 黒田正和)。

滝山氏を招いて 記念講演会開催

化技懇総会

北関東地区化学技術懇話会では6月29日、桐生市の桐生市市民文化会館で総会・記念講演会を開催した。

総会では2016年度事業報告および17年度事業計画案、16年度決算および17年度予算案が審議、可決された。

記念講演会では、東京農工大学大学院工学応用化学専攻教授の滝山博志氏が「再洗操作と晶析



講演する滝山博志氏

操作との接点、結晶粒子群の品質制御」という題目で講演した。

今回のトピックである「晶析は分離精製プロセスという観点と粒子群製造プロセスという観点」が、滝山氏は相図を使って所望の結晶形を析出させる操作設計を紹介。実際の操作は母液の冷却速度と析出速度の二つを制御しながら行われるが、不安定領域に入らずに生産速度を高めるには、種結晶の導入による析出速度の増大が必要である点を説明した。

また、共結晶(複数の成分が特定の化学量論比で含まれた分子結晶)については、今までと全く異なる考え方が必要になるとし、構成成分の純粋な結晶が「不純物」になるため、共結晶のみに推進力を与える領域で操作する必要があると説明。ほかにも最新のトピックスを紹介していた。

(群馬大学大学院助教 石飛宏和)

浅川直紀氏らが 最新の研究紹介

複材懇総会

6月2日に群馬大学理工学部で2017年度複材材料懇話会理事会および総会が開かれた。16年度の事業について報告があり、同年度決算・会計監査報告がそれぞれ説明され、事業報告とともに承認された。

次に17年度事業計画



講演する浅川直紀氏

び総会が開かれた。16年度の事業について報告があり、同年度決算・会計監査報告がそれぞれ説明され、事業報告とともに承認された。

次に17年度事業計画

(第106〜108回講演会)、同年度予算案について説明があり、承認された。理事会には9人、総会には14人が出席した。

引き続き第106回講演会が開催された。講演会の1件目は群馬大学大学院理工学部准教授の浅川直紀氏の「生物の情報処理機構に学ぶ高分子エレクトロニクスデバイス」であった。構造ゆらぎによる不安定な電気物性に着目した生体情報処理デバイスの基本素子である確率的閾値素子

の研究成果を紹介した。2件目の講演は高崎量子応用研究所の瀬古明氏による「放射線(量子ビーム)加工技術を用いた機能性材料の開発」であった。高崎量子応用研究所の紹介、量子ビームの作用についての説明の後に、量子ビームを用いたグラフト重合による高機能化の原理、研究開発例(接着性の向上、金属捕集材料、CS吸着材料)を紹介した。参加人数は31人だった。

(群馬大学大学院教授 山延健)

大谷氏と上西氏 研究や事例報告 地中熱利用研究会

7月19日に桐生商工会議所会館ケビックホールで、北関東地中熱利用研究会の2017年度総会が開催された。

総会では上野文雄会長から開会あいさつがあり、16年度活動について年次総会・講演会、見学会、地中熱利用技術者教育、環境新聞への寄稿などの事業報告、および会計報告が行われ、全参加者27人が承認した。

17年度の活動方針については、年次総会・地中熱普及講演会のほか、比較的安全な地中熱・地下井水が「扇状地地域におけるオープンループ型

大谷氏と上西氏 研究や事例報告 地中熱利用研究会

7月19日に桐生商工会議所会館ケビックホールで、北関東地中熱利用研究会の2017年度総会が開催された。

総会では上野文雄会長から開会あいさつがあり、16年度活動について年次総会・講演会、見学会、地中熱利用技術者教育、環境新聞への寄稿などの事業報告、および会計報告が行われ、全参加者27人が承認した。

17年度の活動方針については、年次総会・地中熱普及講演会のほか、比較的安全な地中熱・地下井水が「扇状地地域におけるオープンループ型



大谷具幸氏の講演風景

目指すための事業計画案が説明され、運営体制と予算を含めて満場一致で承認された。

なお、総会の最後にNPO法人地中熱利用促進協会の笹田政理理事長から、地中熱利用の最新動向をはじめ、地中熱に関する省エネ基準などが紹介された。

また、総会に続き開催された地中熱普及講演会では、岐阜大学工学部社会基盤工学科教授の大谷具幸氏が「扇状地地域におけるオープンループ型